

高梁川流域一斉清掃2006



我らが倉敷市管事業協会 理事長・会員 + 青年部会会員

さる11月26日（日）、小雨の降る中、恒例の『高梁川流域一斉清掃』が行われました。

この高梁川は岡山県の三大一級河川の一つで、県西を流れる川としては我々の水源であり、水島コンビナートなどの工業用水として使われている大切な川なのです。



さあ、清掃活動開始！

そして、この高梁川流域一斉清掃は約5千人の市民が集まり、約100キロある河川を分担してそれぞれの地域で清掃活動を行っています。

我々の地域の参加者としては、管事業協会の親会員・青年部会会員を始め、市水道局の職員やボーイスカウトの子供たち、ボランティアの人な

協同組合 倉敷市管事業協会青年部会

担当役員 榎村隆司

実施日 平成18年11月26日(日)

参加者 総勢約300名

(内訳: 管事業組合 約 80名 市水道局職員 約 30名 ボランティア 約 90名 その他 約100名)

ど総勢約300人が集まりました。

朝8時に全員が集まり、代表者の挨拶、実行委員長の掛け声の後、それぞれ火箸とビニール袋を持って一斉に清掃活動を始めました。今年は2ヶ月程前の大雨により河川が増水したためか、川底に沈んだ堆積物が多く出てきました。特に驚いたのは、ベッドマットやベビーカー、冷蔵庫、原付、自転車、自動車部品など産業廃棄物と言われる物が多く捨てられていたことです。他にも古タイヤ、一斗缶、発泡スチロール、木くずなどが捨てられてあり、約1時間半の清掃活動であっという間に2tトラック10杯分にも相当する量のゴミが集まりました。集めたゴミは女性のボランティアの方々が丁寧に分別してくれていました。

参加して感じたことは、嬉しいことにこうした活動に参加していただけの市民の方々が年々増えていることです。それだけ市民の関心が大きくなりつつあるということです。

反面、何故こうした活動をしなければならないのかを考えると、やはり「ゴミを捨てる人がいる」からです。ゴミを捨てるから拾わなければいけない、この矛盾したスパイラルをどこで断ち切れるか、我々青年部会で考えていきたいと思っています。



あっという間にゴミの山



こんなにきれいな川なのに...